

## 分娩監視装置導入により安全な出産を

国際協力機構(JICA)は1月20日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」においてトーイツ株式会社(東京都渋谷区、池田一寛代表取締役社長)が提案する「分娩監視装置導入による周産期医療の質向上に係る案件化調査」(モンゴル)を採択しました。

モンゴルでは、妊産婦死亡率及び乳児死亡率の改善がみられる一方、分娩管理の不備に伴う不要な帝王切開率の上昇が課題となっています。

同社の分娩監視装置は、陣痛計と胎児心拍計を一体化した計測器であり、胎児心拍数と陣痛を長時間モニタリングできる製品です。同分娩監視装置の導入により、胎児・母体の異常を早期に発見することが可能になり、適切な分娩管理のもとで、不要な帝王切開の減少、新生児蘇生率の低下及び新生児仮死率の低下が期待されています。



同社分娩監視装置  
(アクトカルディオグラフ・MT-610)

なお、計測データを読み取り、正しく胎児・母体の状態を把握するためには、分娩監視装置を正しく操作する知識に加えて、計測データの医学的意味を理解することが必須であり、本調査では、分娩監視装置の使用法と計測データの読み方に関する教育プログラムも予定しています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2015年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。120件の応募のうち34件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)案件化調査2015年度第2回公示の採択結果について

URL: [http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001moz9h-att/investigation\\_201502\\_result.pdf](http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001moz9h-att/investigation_201502_result.pdf)

### 【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国内事業部 中小企業支援調査課 永野(案件担当)、橋本(広報担当)  
TEL 03-5226-3243 e-mail: [pdtfs@jica.go.jp](mailto:pdtfs@jica.go.jp)